

産業建設常任委員会代表質問



質問者
田村 計久

スキーの22年度の取り組みは？

町長答弁

雪国観光圏については平成20年度から25年度の事業で国や関連団体が注目し国の補助事業でもある。観光圏の社会資本整備支援に北陸整備局も加わってきたこと等、当分の間町が支援をしなければならぬ。

雪国食ブランドについては昨年かぐら南蛮、もち豚、みゆき鱒など食材とした試食会が大好評であった。今年度は県外を含め各地で発表会を開催しブランド化を目指したい。

国際観光受け入れ事業は国際的な視点から見た、スノーカントリー、雪国ブランドをつくりあげるため、海外からの来訪客に満足して貰える体制づくりを構築しなければならぬ。

日本政府観光局とタイアップ、商品構成、セールスなど行う準備をしている。現在もベルリンの国際旅行博に4名派遣し、作業に着手している。

百年スキー、21年度はJR東日本、西日本の協力で無料の百年スキーポストなどを貼っていたりパンフレットのキヤラクター、レルヒさんや雪遊び隊長の加藤清四郎君をおおいに活用していく。

スキー休眠層の掘りおこしのため、食、温泉、健康を冬の魅力として提案していく。

質問

4、国道、県道町道の整備について

中学校建設に伴い隣接する道路の改良が必要である。県道越後湯沢岩原停車場線の拡幅と隣接する町道の改良を中学校建設にあわせて行うべきと思うがいかがか。

町長答弁

この県道は都市計画決定されており数年前から要望している。小学校の統合も考えると利用度が高まるので改良は急がねばならない。今後強力に要望していく。

質問

5、砂防事業の促進と協力について
川は湯沢町の自然の宝。これを守り活かすための政策を砂防事務所に協力いただき策定実現に向け取り組んではいかがか。

町長答弁

砂防事務所さんには地域の安全と安心を守るために直轄砂防事業で様々な協力をいただいている。

地域活性化に関わる事業があると聞いているので地域の皆様と相談し、長期的な取り組みとして予算と相談しながら進めたい。

質問

6、農林業の振興について
バイオマスタウン構想の全体像の定まらない中でペレットストーブの補助金制度と廃油の回収に取り組んだが町長の言う循環型のごみリサイクルの取り組みはどうか。

町長答弁

これまでも生ごみについては補助制度を設けコンポスト、生ごみ処理機の家庭用について取り組んできた。近年の町全体の可燃ごみについては順調に減少してきている。しかし住民の高齢化やリサイクル化のことを考えると今度とも取り組まなければならぬ問題と考えている。

質問

7、定住交流促進事業について
地域居住については一定の成果は出たと思うが総合的な検証がなされていない。町の活性化がはかれず、高齢化率の上昇に合わせて、福祉体制のあり方など問題が多い。

町長答弁

今年度は団塊の世代をターゲットとしているのだが定住につながるような展開は大きな問題である。

定職なくして定住無し、若い人に住んでもらうには総合的な政策が必要で大変難しい。湯沢暮らしについては検証は難しくこれまでも関係者から話を聞く中で判断しているが納税も多く一概に高齢化につなげるのはどうか。

指摘のことについては中長期のなかで判断したい。紙面には若い人のコメントを多く入れたい。

質問

1、基本理念について

町政2期目町長が掲げた選挙公約の今後に寄せる期待は大きい。一流の田舎町を目指す取り組み、その基本理念と総合計画の今後について伺います。

町長答弁

一期目は行財政改革に取り組んできたために私の基本スローガンである一流の田舎町構想を提示することができなかった。

今年度作成される総合計画には町民の皆様によりわかりやすく、より実効性のある形で提示したい。

質問

2、三俣振興対策について

三俣振興対策の道の駅について用地買収、建設設計が22年度おこなわれるが建設位置と施設内容、施設規模

町長答弁

模に対する意見集約はなされたか

三俣街道の湯施設の南側4200㎡に国がトイレ、駐車場、県が足湯施設、町が案内所、物品販売所、飲食店とそれぞれの負担割合のなか22年度設計、用地買収敷地の二部整備を行い、23年秋のオープンに向け、長岡国道事務所と協議中である。

すでに地元協議会とは同意しているが運営、施設内容については協議中で町の考えとしては公募によらない地元任意団体に管理委託をした

質問

3、観光と商工業の振興対策について

雪国観光圏の今後の町のかかわりと、雪国食ブランドの魅力向上事業、国際観光受け入れ基盤整備事業の重点事業とはなにを行うのか、百年